

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<b>治燥剂 軽宣潤燥剂 2</b>		
そうきょうとう 桑杏湯	清宣涼潤	桑葉 3g・杏仁 4.5g・沙参 6g・浙貝母 3g・淡豆豉 3g・梔皮 3g・梨皮 3g 水煎し頓服する。
温病条弁	<p>&lt;主治&gt;                      外感温燥                      発熱、微悪風感、頭痛、鼻や咽の乾燥、口渇、乾咳、粘稠な少痰、舌苔は薄白で乾燥、舌質は尖辺が紅、脈は浮数などを呈す。</p> <p>&lt;病機&gt;                      初秋の残暑と、乾燥による温燥の邪の侵襲を受け、肺衛、肺津が損傷された状態である。温燥の邪が肺衛を侵襲して邪正相争するので発熱し、邪と相争して衛気が失調するために微悪風寒を伴い、温邪が清空を上擾するので頭痛が生じる。燥邪が肺津を損耗するために、肺竅の鼻、肺系の咽が乾燥して痰も粘稠になり、肺気の肅降が阻害されて乾咳、少痰を呈する。津液が不足するために口渇、舌の乾燥がみられ、温邪が肺にあるので舌尖辺が紅、脈が数を呈し、外邪襲表の初期であるから舌苔は白、脈は浮である。</p> <p>&lt;方意&gt;                      温燥の邪を清宣し兼ねて潤肺止咳する。                      軽宣の桑葉・淡豆豉で宣肺散邪し、宣肺降気の杏仁が補助する。潤肺生津の沙参・梨皮、潤肺化痰、止咳の浙貝母、清泄肺熱の梔皮は、肺熱を清し肺津を滋潤して止咳、化痰する。全体で燥熱を軽宣し肺陰を涼潤することができる。</p> <p>&lt;参考&gt;                      加減法                      咽候の乾燥、疼痛が顕著なときは、牛蒡子を加える。                      出血があれば、茅根を加える。                      痰が黄で粘稠であれば、栝楼皮を加える。                      邪が軽浅で肺経の薬物も軽浅であるから、煎じる時間は短く、用量も過量にならない方がよい。</p>	